

95
38

数理解析研究所講究録 448

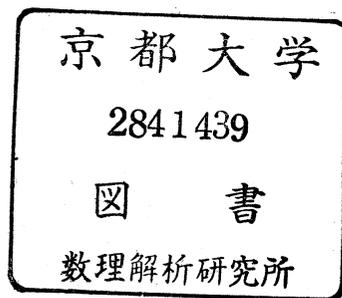
数学分野の学術情報体系

京都大学数理解析研究所

1982年2月

RIMS Kokyuroku 448

Information Retrieval System
in the Field of Mathematics



February, 1982

Research Institute for Mathematical Sciences

Kyoto University, Kyoto, Japan

数学分野の学術情報体系

研究集会報告集

1981年10月22日 - 10月24日

研究代表者 一松 信

目 次

1. はしがき1
京大 数理解 一松 信
2. 数学分野の Data Base SOLID-M と数学専門誌に
見られる Reference の関連3
東大 理 羽鳥 浅子
' ' 池沢 順
' ' 吉永 恵子
3. 日本語データベース作成について
— 数理解析研究所講義録を対象に —12
京大 数理解 中司 里美
4. 学術情報組織化の中の図書室の役割と名古屋大学理学部
数学教室に於ける二十世紀以前の洋書文献リスト....20
名大 理 谷川 澄子

5. 学術情報センターシステム, 広島大学データベース
システム及びその中の数学学術情報システム.....42
筑波大 社会工学系 池田秀人
広島大 総合情報処理センター 二神かほる
6. 統計解析のための DBMS の追加機能について56
広島大 総合情報処理センター 小林康幸
筑波大 社会工学系 池田秀人
7. ある会話型数式処理言語の開発69
広島大 総合情報処理センター 大友正英
筑波大 社会工学系 池田秀人
8. アンドとオアについて76
東理大 理工 細井 勉
9. 関係データベースの自然な設計の理論83
北大 工 田中 譲

は し が き

京大・教理研 一松 信

本冊は、1981年10月22日(木) - 24日(土)に開催された
数学分野の情報検索に対する研究集会の報告である。

この方面については、同じ年の5月11日から13日まで短期
共同研究を開催し、講究録 No. 433 として報告を出した。
今回はPRをも兼ねて、研究集会の形にしたが、不幸にして
他の国際会議や学術会議總會と重なり、出席者が少なく、そ
の目的は十分に達せられなかった。学術的報告以外に、次年
度以降の研究体制の相談も兼ねて10月に開催したのであるが、
日本数学会、情報処理学会など、関連学会の大会が相つき、
あまりよい時期ではなかったと反省している。

今回の報告集は、比較的薄いながら、いずれも各講演者がてか
けてきた作業の報告であり、貴重な内容を含むものである。
数学分野の情報検索が、医学や化学におけるものと同列には
考えられないにしても、いつまでも昔ながらの家族的ないし
手工芸的な方法だけで済むものとは思われないだけに、御理
解の一序になることを期待する。

(メモ) Citation Index は適切な指標か? —

近年論文の「客観的価値」をよかる尺度として、引用回数
が重視され、科研費の申請書類にも、その記述を義務づけら
れている場合が多い。多くの数学者は「誰がそんなばか事こ
とを突案したのか」といつているようである。

引用回数については、特にアメリカの学界でかなりの歴史
と、それなりの役割りがある。特に化学・生物など、物質や
具体的生物を対象とする学問では、実際にもある程度の尺
度たりうるらしい。しかし数学のよる、抽象物を対象とす
る学問では、少々見当違いなめがねの感をまぬかれまい。

実例は十分でないが、1981年になって、2つの反例を聞い
た。一つは“Mathcomp”において、実際に数学分野の論文
について引用回数を調べた報告であり、他は AAAS で、全分
野に対する引用回数を調べた報告である。後者では百位まで
に数学の論文が一つも入っていないかった! 前者では(署名
のイニシアルだけのため、別人が同一人物とされた誤りが目
立ったが)最高の引用回数を示したのは Erdélyi の公式集
と Bourbaki の叢書であった!

まだデータが十分でないが、日本でも引用回数が数学の論
文の価値と相関が少いことを示す調査を行う必要があると思
う。

(一松 信)